

世界マスターズ柔道大会参戦記Ⅱ 団体戦

株式会社リスク・マネージャー

代表取締役 西久保 博信

グランドマスターズ国際柔道大会の魅力

世界マスターズ柔道協会（World Masters Judo Association）本部・カナダが主催した大会は12回に及ぶが、その全部に参加されたのが野口宏水 7段（現・名誉会長）、清水正敬 8段（現・会長）、この慶応大学柔道部OBコンビが、第5回大会の開催地が東京（日本）に決まった時、立ちあげたのが「日本マスターズ柔道協会」である。「日本マスターズ柔道協会」の中には、大矢秀昭 7段、森本唯行 7段、安河内浩 6段、清家春夫 7段の4人が10回出場、太田尚充 8段、高橋勘十 8段、杉原尚 7段、内藤純 7段、中島忠 3段の5人が8回出場というから驚いた。

① 1999年 WELLAND（カナダ）② 2000年 SYDNEY（カナダ）③ 2001年 PHOENIX（米国）④ 2002年 LONDONDERRY（N. アイルランド）⑤ 2003年 TOKYO（日本）⑥ 2004年 VIENNA（オーストリア）⑦ 2005年 TORONTO（カナダ）⑧ 2006年 TOURS（フランス）⑨ 2007年 SANPAULO（ブラジル）⑩ 2008年 BRUSSELS（ベルギー）⑪ 2009年 ATLANTA（米国）⑫ 2010年 MONTREAL（カナダ）の8カ国12都市に彼らを駆り立てたものは何か？

BRUSSELS（ベルギー）、ATLANTA（米国）、BUDAPEST（ハンガリー）、MONTREAL（カナダ）、FRANKFURT（ドイツ）、先輩方のお叱りを覚悟の上、4年間・5カ国の雑駁な経験を一柔道家として記させて戴く。

- 1 オリンピック、世界選手権のような選抜された、国を代表する選手とは立場が違うが、柔道着に日の丸を縫い付け、JPN（日本）のゼッケンを背に、試合に出てみたかった。
- 2 国内では国際大会に出場するときしか、縁のないブルーの柔道着を着用して試合をしたかった（カナダが本部の世界マスターズ柔道協会の大会は白の柔道着に白・ブルーの帯を着用、IJFの大会は赤がブルー、白が白色の2着の柔道着を使い分ける）。
- 3 表彰台の一番高いところで、金メダルを胸に「君が代」の吹奏とともに国旗の上がる感激を一度は味わってみたい。
- 4 マスターズ柔道大会は30歳以上という出場年齢の下限はあるが、年齢の上限は制定されていない（勝てるまでやる。ステイヤング）。
- 5 日本で生まれた柔道が、日本が誇れる文化として、諸外国にどこまで浸透し、理解されているか？肌で感じてみたい。

グランドマスターズ国際大会大会要項（抜粋）

フランクフルト／メイン（ドイツ）

参加資格

本大会への参加資格として、参加者個人は以下のすべての条件を満たしていなければならない。

- ① 2011年1月1日の時点で、最低年齢30歳
- ② 現在IJFに加盟している国家連盟により発行された、有効なライセンス（メンバー登録）を保持していること
- ③ 本文書で定められている締切日迄に、適切なエントリー料金をすべて支払うこと
- ④ レジストレーション時に、正しく登録（チェックイン）をおこなうこと
- ⑤ 規定にある、特定の計量条件を満たしていること
- ⑥ 有効なパスポート、もしくは国のIDカードを使って、

生年月日と身分を証明する写真付きの証明書を提示すること

- ⑦ 2011年6月16日より前に、国の代表の一員として、国際シニアレベルの大会にナショナルチームの代表メンバーとして出場していないこと
- ⑧ 選手の正確な国籍は、現在のパスポートもしくは現在の国のIDカードに記されているものであるとする。選手は、1つの国からのみ出場することができ、国籍を変えている場合、2011年6月16日より前の1年間、出場できない期間を過ごしていることが条件であるが、両国内連盟（国籍を変える前と変えた後の）が承認したという書類を持っており、IJFのSOR（規則）に沿っていれば、その限りではない。
- ⑨ 総ての選手は、大会前に、健康診断を受けてくることが推奨される。

保険

選手は必ず、怪我や民事責任に対して、柔道の大会に参加することを除外していない旅行保険、もしくは特定の保険に個人的に加入していること。もしくは、自国の連盟が掛ける保険に加入していること。各選手は、大会期間中は必ずドイツの特別健康保険を購入しなければならない。IJF及びその関係者も、ドイツ柔道連盟及びその関係者も、大会に参加することによる、遺失、怪我、死亡に対する一切の責任を負わない。

年齢と試合時間

女子	男子	誕生年
F1	M1	1981 — 1977
F2	M2	1976 — 1972
F3	M3	1971 — 1967
F4	M4	1966 — 1962
F5	M5	1961 — 1957
F6	M6	1956 — 1952
F7	M7	1951 — 1947
F8	M8	1946 — 1942
F9	M9	1941 — 1937
F10	M10	1936 — 1932
F11	M11	1931 —

- ① 年齢区分
- ② 試合時間

年齢幅	年齢区分	試合時間
30 — 59 歳まで	M1/F1 ～ M6/F6	3 分
60 歳以上	M7/F7 以上	2 分 30 秒

上記の時間は個人戦、団体戦ともに適用する。

団体戦の年齢区分と階級（体重）

- ① 男子5人制
年齢区分：M1&M2, M3&M4, M5&M6
階級：先鋒—66 kg、次峰—73 kg、中堅—81 kg、副将—90 kg、大将無差別
- ② 男子3人制
年齢区分：M7 以上
階級：先鋒—73 kg、中堅—90 kg、大将無差別
- ③ 女子3人制（全てのチームが以下の区分分け）
年齢区分：F1&F2, F3&F4, F5 以上
階級：先鋒—57 kg、中堅—70 kg、大将無差別

個人戦階級（公式IJF階級）



女子：—48 kg, —52 kg, —57 kg, —63 kg, —70 kg, —78 kg, +78 kg
男子：—60 kg, —66 kg, —73 kg, —81 kg, —90 kg, —100 kg, +100 kg

団体戦フォーマット

- この大会では、選手は1つのチームでしか戦うことができない。
- 控えの選手は試合をしなければ、メダルを受け取ることはできない。
- 年齢の高い区分の選手は、年齢の低い区分の試合に出てもよい。
- 選手は自身の階級区分より重い階級区分の試合に出てもよい。
- 団体戦の試合結果は、それぞれの試合の勝利数によって決まる。全ての試合は勝ち負けを決め、必要であればゴールデンスコア（団体戦は1分間）を行う。
- チームは各階級に1人、控え選手を用意することができる。控え選手は各試合の前に審判によって適正に確認されれば、制限されることなく置き換えることも、再び出場することもできる。
- チームは、自国の連盟に所属していない違う国の選手を、ゲスト選手として1人まで使うことが許される。
- 団体戦に参加する選手は、本大会の個人戦のために計量を行い出場した階級か、もしくはそれ以上の階級にのみ出場することができる。

ゴールデンスコア

このルールは、全ての個人戦と団体戦で適用される。ゴールデンスコアの長さは、個人戦ではM1/F1～M6/F6までが2分、個人戦のM7/F7以上と、団体戦のすべての年齢区分で1分とする。

団体戦

6月19日、最終日におこなわれた団体戦、60歳以上3人制のエントリーはロシア、ウクライナ、ドイツ、日本1、日本2の4カ国5チームだった。前年のブダペスト大会（ハンガリー）でロシアにつぎ銀メダル獲得の日本は、優勝を狙うチームとダークホース的チームの編成を考えていたが、90 kg級の

中堅を担ってもらはずだった三橋 7段が個人戦で肩を強打、欠場の為大幅な変更を余儀なくされた。優勝を狙う日本1チームは、先鋒 内藤 7段 (73kg)、中堅 栗本 8段 (90 kg)、大将 清水 8段 (100 kg)、控え 上木 7段 (81 kg)、選手4人の平均年齢68歳、日本2チームは、先鋒 西久保 7段 (73 kg)、中堅 鬼柳 6段 (60 kg)、大将 中島 3段 (66 kg)、控え 山本 3段 (66 kg)、選手4人の平均年齢71歳、の布陣で臨んだ。日本2チームの最重量は73 kgの西久保選手ということは、4人が先鋒、中堅、大将のどのポジションにも出場可能という山本チーム監督の作戦だ。最初の試合は日本1と日本2の激突で2対1、日本1の勝ち、日本2チームの第2試合は対ウクライナ戦、先鋒 鬼柳選手優勢勝の後を受け中堅で出場、大内刈で一本勝ちとおもいきや、死に体の相手に左に振られ天井を向いた私の一本負け。続くロシア戦（中堅）は左の払い巻き込みで、最後のドイツ戦は大将で出場、125 kgの相手に背負い巻き込み技あり、そのまま抑えられ1勝3敗で終戦、60歳代前半のヨーロッパ勢に小兵・老兵軍団善戦と自己満足。結果は第一位 ロシア、第二位 ドイツ、第三位 ウクライナ、第四位 日本1、第五位 日本2。来年、リオデジャネイロ（ブラジル）は先鋒に徹して出場できたらいいなあ！

（世界マスターズ柔道大会参戦記Ⅱ 団体戦 終わり）

■西久保博信（にしくぼ・ひろのぶ）

昭和18年生まれ。明治大学（文学、経済、政治専攻）卒。自衛隊レンジャー部隊出身。総合警備保障入社。帝国警備保障取締役、リスク・マネージャー設立、ダライ・ラマ14世警護要員教育（延べ10回、於インド）、北京オリンピック聖火リレー（長野市）の警備解説で延べ9回TV出演、富士ゼロックス防災コンサルタント、日本セキュリティスクール専任講師・顧問、全日本セキュリティ・サポート協会理事長、ライフラインシステム普及協会副会長、地域防災研究所相談役、柔道七段、セキュリティ・危機管理教育実績 延べ93,091人、出張教育研修 延べ3,035回



株式会社リスク・マネージャー
代表取締役 西久保 博信

お問合せ：www.riskmanager-jp.com から